

農中総研フォーラム（2025年5月14日開催） 協同組織金融機関にとってのESG地域金融とは

信金中央金庫 地域・中小企業研究所上席主任研究員

藁品 和寿

1. はじめに

国際連合は、「一年間を通じて、平和と安全、開発、人権／人道の問題など、ひとつの特定のテーマを設定し、国際社会の関心を喚起し、取り組みを促す」ことを目的に、「国際年」を制定している。その一環として、2023年12月の「社会開発における協同組合」と題する総会決議のなかで、2012年に続き、2025年を2回目の「国際協同組合年（IYC：International Year of Cooperatives）」にすると定めた^(注1)。

こうした中、本フォーラムは、「2025国際協同組合年全国実行委員会」の後援^(注2)を受けて、2025年5月14日（水）に実施された^(注3)（図表1）。

図表1 本フォーラムの内容
＜フライヤー＞

農中総研フォーラム
2025 5.14^水 14:00～17:00
協同組織金融機関にとってのESG地域金融とは

地域の環境や社会課題を解決するために、地域金融機関がESG要素を考慮し適切な知見やファイナンスを提供するESG地域金融の重要性が高まっています。地域で事業を行う組合員／会員向けに融資を行う協同組織金融機関にとっては、金融支援によって地域課題の解決や地域の持続性に資することは一般的なことで、地域課題の複雑化や融資規模の拡大等によって、複数の組織が連携して非金融支援を含めて対応することも重要性を増してきました。

このフォーラムでは、協同組織金融機関である信用金庫、JAバンクにおけるESG地域金融の位置づけについて研究者から説明し、実務者から具体的な事例を報告します。他の組織とどのように連携しているのか、どのようにして会員／組合員との対話を重ね金融・非金融支援に対するニーズを明確化し伴走をしているのかなど、ESG地域金融のポイントについてディスカッションを交えて検討します。

Zoomウェビナー開催 参加費 無料

申込方法：二次元コードまたはURLよりお申込みください。
どなたでもご参加いただけます。

<https://zoom.us/join/zoom/1911617300?pwd=Q4572Q>

2025国際協同組合年事業

2025 国際協同組合年
協同組合はよりよい世界を築きます

主催 株式会社農林中金総合研究所
<https://www.nochuri.co.jp/>

E-mail: soumu@nochuri.co.jp
TEL: 03-6362-7705（コーポレート企画部 フォーラム担当）

信金中央金庫
地域・中小企業研究所
上席主任研究員 藁品 和寿氏

埼玉信託信用金庫
主任推進役 田口 和彦氏

愛知県信用金庫協同組合連合会
シニアスタッフ 水谷 慶太氏

農林中金総合研究所
理事研究員 重岡 ユカリ

（備考）（株）農林中金総合研究所提供

（注）1. 詳細は、日本協同組合連携機構（JCA）ホームページ（<https://www.japan.coop/iy2025>）
2. JCA ホームページ（<https://www.japan.coop/iy2025/certified.php>）を参照
3. （株）農林中金総合研究所ホームページ（<https://www.nochuri.co.jp/event/event-38978/>）を参照

<内容>

	タイトル	報告者（敬称略）
解題	本フォーラムの趣旨	(株) 農林中金総合研究所 常務取締役 重頭ユカリ
	協同組織金融機関にとってのESG地域金融とは	信金中央金庫 地域・中小企業研究所 上席主任研究員 藁品和寿
事例報告	ポジティブ・インパクト・ファイナンスの取り組み	埼玉縣信用金庫 地域創生部事業ソリューショングループ 主任推進役 田口和彦
	『JAグループ・行政の総合支援』による『大規模農業法人の経営発展』支援	愛知県信用農業組合連合会食農法人営業部コンサルティンググループ シニアスタッフ 水谷慶太
パネルディスカッション	トピックス① 融資先サポートにおける工夫 トピックス② 埼玉縣信用金庫の他信金と連携した非金融支援 トピックス③ JAグループ内で役割分担しての非金融支援	

(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

なお、(株) 農林中金総合研究所の発案により、協同組合原則^(注4)（協同組合がその価値を実践に移すための指針）のうち「第6原則 協同組合間協同」に基づき、当研究所へ声かけをしていただき、本フォーラムの企画で協働させていただいた。信用金庫業界とJAグループとのコラボレーションの企画となる。

以下、本フォーラムの発案者である重頭ユカリ常務取締役の声を紹介する。

【コラム】(株) 農林中金総合研究所 重頭ユカリ常務取締役の声

今回のフォーラムは、2025年が国際協同組合年であることをきっかけとして企画した。協同組合原則に共同組合間協同があることを意識して、信金中央金庫地域・中小企業研究所と当研究所が一緒になり、信用金庫とJAがそれぞれの取組みについてより理解を深めることができれば、一層の協同の発展にもつながるのではないかと考えた。

そこで、双方で、6か月ほどをかけて企画の内容についての検討を重ね、登壇者同士での打合せも交えながら、綿密に準備を進めてきた。フォーラムでは、その成果を披露することができ、大変喜ばしく思っている。

今回のフォーラムをきっかけに、さらにより多くの方々にJAグループならびに信用金庫の“強み”や“良さ”を知っていただけるよう、当研究所としては、今後とも、協同組織金融機関同士の連携を深め、PR活動に努めていきたい。



(注)4. 第1原則：自発的で開かれた組合員制、第2原則：組合員による民主的管理、第3原則：組合員の経済的参加、第4原則：自治と自立、第5原則：教育、訓練および広報、第6原則：協同組合間協同、第7原則：コミュニティへの関与

2. 解題

重頭常務取締役からは、本フォーラムの趣旨のほか、JAと信用金庫のそれぞれの特徴や、地域循環共生圏等に触れながらESG 地域金融の定義や取り組む意義等についての解説を行った。特に、地域社会がさまざまな課題を抱えている中で、その課題解決に向けて協同組織金融機関が果たす役割への期待が大きくなっていることが強調された。また、組合員や会員が地域のために行う事業に融資した結果、ESGが実現できたというケースが多くみられ、従来から積極的に行ってきた金融・非金融支援がESG 金融としての位置付けを得るようになった側面もあるのではないかという指摘もあった。

藁品からは、「脱炭素」がESG 課題の共通項になりつつある中で、信用金庫業界で推進している「しんきんグリーンプロジェクト」に触れながら、地域・中小企業の脱炭素化に積極的に取り組んでいる信用金庫の好事例を紹介するとともに、金利上昇局面で有効な資金調達手段の一つになっているサステナブルファイナンスについても話題提供をした。

以下3. では、解題に続いて行われた事例報告の内容を要約して紹介する。

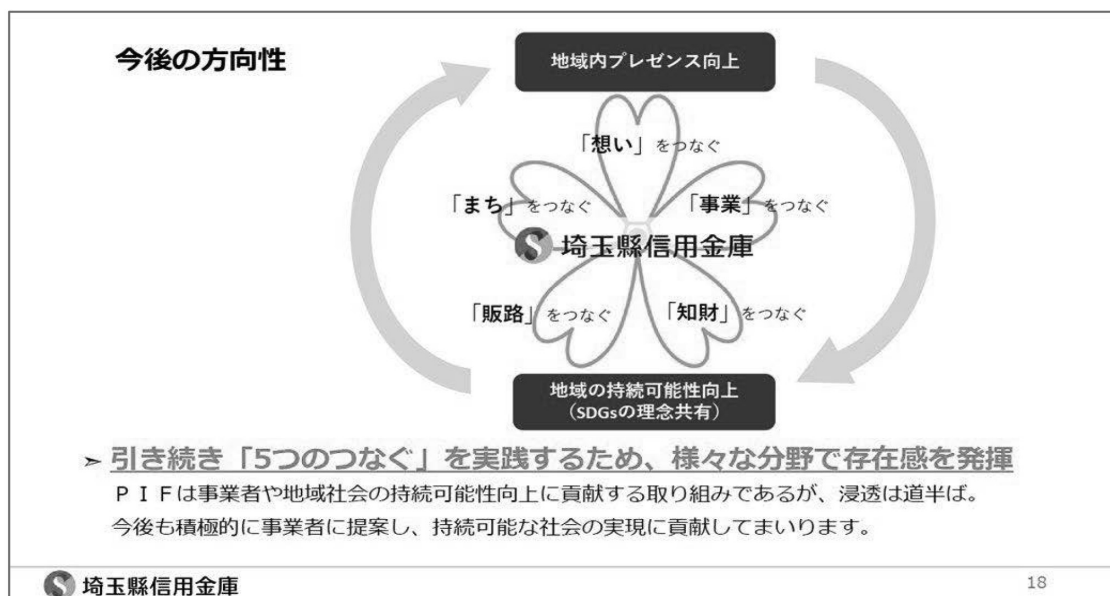
3. 事例報告

(1) 埼玉縣信用金庫（講師：地域創生部事業ソリューショングループ 主任推進役 田口和彦様）

埼玉縣信用金庫は、2023年度から25年度までの3か年の中期経営計画を、5つの「つなぐ」によって地域の持続可能性を支えていくことをテーマに策定した。この方針の下、事業ソリューショングループは、サステナブルファイナンスを含む高度融資に取り組む一環として、ポジ

図表2 埼玉縣信用金庫の取組み

ポジティブ・インパクト・ファイナンスの事例	
ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書 評価対象企業： 武蔵コーポレーション株式会社  本社：埼玉県さいたま市	武蔵コーポレーション株式会社 様 (当金庫 P I F 第 1 号案件 2024年8月22日) 中古不動産の再生や不動産管理業。 不動産を通じたさらなる企業成長や雇用増加を図るにあたり、SDGs達成に向けた目標の設定や、本ファイナンスを通じた企業価値向上に賛同いただき、本ファイナンスに申込みとなった。
ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書 評価対象企業： 松坂屋建材株式会社  本社：埼玉県熊谷市	松坂屋建材株式会社 様 (当金庫 P I F 第 1 0 号案件 2025年3月31日) 専門工事・改修工事を主とする建設業。 SDGsを切り口としたSWOT分析として本ファイナンスを申込みとなった。評価にあたっては事業の柱である“改修工事”と、“人材”にフォーカス。SDGs達成に向けた施策や目標を設定した。



(出所) 投影資料

ティブ・インパクト・ファイナンス（以下「PIE」という。）に取り組んでいる（図表2）。

PIFは、国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI) が提唱する「ポジティブ・インパクト金融原則^(注5)」に準拠したファイナンスであり、事業活動が社会・経済・環境の3側面に与える影響を包括的に分析、評価し、将来に向けた施策やKPI（重要業績評価指標）等も併せて設定する。企業にとっての付加価値の一つとして、SDGs 達成に向けた取組みを整理してとりまとめることができ、ステークホルダーに公表できることが挙げられる。企業価値のさらなる向上を目指し、SDGsを通じた今後の取組み方針を明確化できることもメリットである。

特定したインパクトに合致する施策や目標について対話を通じて設定することに難しさを感じることはあるものの、同金庫では、こうした対話によって、事業者との関係性が強化される効果があると感じている。

地域に根ざす協同組織金融機関として、今後も、事業者一社一社との“顔の見える関係性”を構築していきたい。

(2) JA 愛知信連（講師：食農法人営業部コンサルティンググループ シニアスタッフ 水谷慶太様）

JA 愛知信連は、JGAP 認証^(注6)の取得支援を通じた販売力強化・生産性向上と、JA 総合事業支援による経営発展に向けた諸課題への対応という2つの観点から、積極的に耕作放棄地を

(注)5. <https://www.unepfi.org/wordpress/wp-content/uploads/2018/09/POSITIVE-IMPACT-PRINCIPLES-JAPANESE-WEB.pdf>を参照

6. GAPは、「Good Agricultural Practices」の略称で、環境保全に重きを置いた適切な農業を実践していることを第三者機関が認証する制度である。農業生産の各工程の実施、記録、点検、評価による持続的な改善活動を通じて、農業者自らがSDGs／ESGに貢献できるものである。詳細は、(一財)日本GAP協会ホームページ (<https://jgap.jp/gap/>)を参照

引き受けて地域農業を支える大規模農業法人である（有）ゴトーアグリ^(注7)（愛知県丹羽郡扶桑町）への支援を行った（図表3）。

JGAP 認証の取得支援では、営農管理システムの活用^(注8)による圃場情報管理、農場整備^(注9)、JGAP 指導員を講師とする現地研修等を通じた伴走支援を行った。JA 総合事業支援では、経営診断、販路拡大、労働力確保、融資・補助金という4つの支援に主に取り組んだ。農家目線に立った総合事業力を有し、幅広いニーズに応えられるというJA グループの“強み”を発揮

図表3 JA愛知信連の取組み

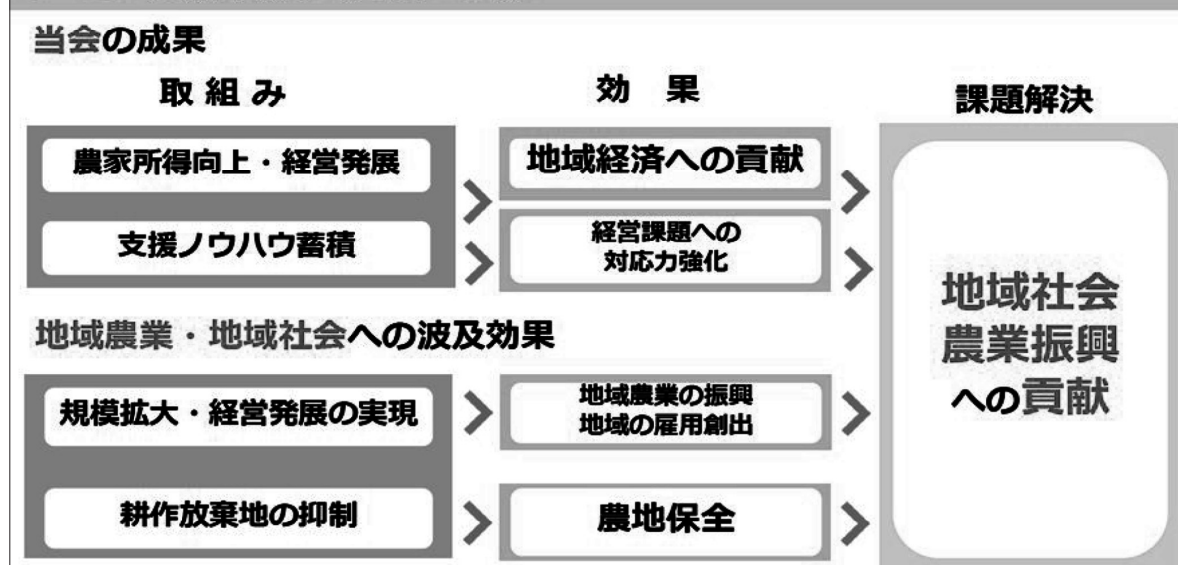


(注)7. <https://www.gotoagri.net/> を参照

8. JA 全農が提供する営農管理システム「Z-GIS」(<https://z-gis.net/99/index.html>) によるクラウド化

9. 農薬保管庫や出荷場を中心に標識の掲示等の支援を行った。

6-2. 支援の成果（当会・地域）



（出所）配布資料

できた支援事例となった。また、JA 愛知中央会、JA 愛知北、愛知県農業改良普及課等と連携して支援チームを組成し、対話により課題の深掘りをしながら「総力戦」で伴走支援を継続したことも大きな成果が得られた要因だろう。「地域農業を守りたい」という同社の熱い想いを応援したいと考えたことが、結果的にESG 地域金融につながっていたと感じている。

次の10年先を見据えながら、同社への支援事例を活かし、多様化する農業法人等のニーズに応えることで、さらなる地域農業の発展への歩みを支援していきたい。

4. おわりに —「協同組合間協同」に向けて—

事例報告の後、報告者同士でのパネルディスカッションが行われた。3つのトピックスに分けて（図表1＜内容＞）、事例報告それぞれの内容の一部を深掘りした議論を行った。その中で、業態は異なるものの、地域貢献という存在意義や「対話」と「連携」の重要性等、お互いの共通点に気づくことができる等、相互理解を深めることができた。

本フォーラム全体を通じて伝えたいこととしては、以下が挙げられる。

＜本フォーラム全体を通じて伝えたいこと＞

- 地域に密着したサポートと規模の枠を超えたサポートを両立できることが、協同組織金融機関の強みであると実感できたことから、信用金庫とJAグループとの業態を超えた連携が、今後、さらに一層進むことを期待したい。
- 本フォーラムのキーワードは「対話」と「連携」である。社会課題解決を目指すESG地域金融では、組合員・会員の事業への深い理解を前提とした深みのある対話が、通常の融資に比べて大切なポイントの一つである。地域の社会課題解決に向けて、単体では難しいことについて、業界の中央機関や中央団体を巻き込みながら、信用金庫同士、JAバンク同士、そして必要に応じて業態を超えた連携を期待したい。

（株）農林中金総合研究所の高義行代表取締役社長から、冒頭の挨拶で、「本フォーラムは、国際協同組合年事業として何か協同組合の良さをアピールできないかという思いから企画された」という言葉を賜った。

今回のフォーラムをきっかけに、協同組合原則の第6原則に基づき、JAグループ、信用金庫という垣根を超えて、相互理解が深まっていき、会員や組合員に「協同組合の良さ」をさらに実感していただけることを期待したい。なお、本フォーラムの動画は、農中総研 YouTube チャンネル^(注10)で公開されている。

最後に、本フォーラムの信用金庫業界への周知にあたっては、（一社）全国信用金庫協会企画部にご協力いただいた。この場をお借りしてお礼申し上げたい。

(注)10. https://youtu.be/nyk6m8B3PeI?si=sAdEjjpxSSbB16_aを参照